

該当ページ	章・節	該当箇所	誤	正
6	目次	Column 4	Gas to Liquids	Gas to Liquids
23	1.4	1行目	Scenarios	Pathways
34	1.7	2行目	Reovery	Recovery
44	1.11	①の2行目		(注; 政府は、2020年10月に、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロとすることを発表)
45	1.11	図1.20	CCU 4.2億トン/年	CCU(火力) 4.2億トン/年
45	1.11	図1.20	CCU <3.5億トン/年	CCU(火力以外) <3.5億トン/年
48	1.12	4行目	ECMB	ECBM
95	4.3	下から7行目	(Climeworks) 社がが参画し	(Climeworks) 社が参画し
106	4.5	②新素材グラフェンの2行目	図4.14のような炭素間結合距離が約0.142 nmのダイヤモンド構造 (8) をしていることから、もっとも引っ張り強度の高い炭素材料と考えられている。	図4.14のような構造で、炭素間結合距離が約0.142nmであり、炭素同志の結合が強く、ダイヤモンドのようにもっとも引っ張り強度の高い炭素材料と考えられている。
106	4.5	注釈8	ダイヤモンド構造 ダイヤモンドに見られるように、1つの炭素原子が中心に位置する正四面体の各頂点に4個の炭素原子が配置され、三次元的に炭素原子の結合が広がっている結晶構造。	削除
124	5.1	図5.1	~12億トン	~120億トン
129	5.2	上から3行目	Electrolyte	Electrolysis
143	5.5	表5.3 真ん中の図	ボイラー給水の矢印、左から右	矢印を右から左向きに
148	5.6	図5.13 左側の縦軸	9	8
153	5.7	下から1行目	オキシメチレンエーテル	オキシメチレンエーテル
154	5.7	上から4行目	二酸化窒素	窒素酸化物
155	5.7	④の次の行	Oxymethyken dimethyl	Polyoxymethylene dimethyl ethers
155	5.7	表5.6 2行目	Dimethylether	Dimethyl ether
158		Column 4 タイトル	Gas to Liquids	Gas to Liquids
167	5.9	3番目の反応式	ΔH_{CH_3OH}	ΔH_{CH_3OH}
167	5.9	脚注 2	変換機	変換器
172	5.10	下から4行目	800°C程度を維持	800°C程度と維持
174	5.11	8行目	現状火力発電	現状、火力発電
174	5.11	13行目	平成2011~2015年度	2011~2015年度
184	5.13	3の2行目	Liquid	Liquid
184	5.13	3の4行目	Elrctrolyser	Electrolyser
185	5.13	図5.37	Sunfier-HyLink	Sunfire-HyLink
209	6.6	上から15行目	Berkley	Berkeley
277	9.6	6行目以降	「直接・化成品リサイクル利用」側は、正確には一時的なCO2固定化であり、いずれ大気にCO2が解放されることがあることを認識しておかなければならない。溶接などによる直接大気放出、肥料・プラスチックなどに一度は固定されたCO2が、長い月日を経て再び大気に放出されることから、DACによりCO2を回収するルートを送らなくてはならない。	「直接・化成品リサイクル利用」側では、溶接などによる直接大気放出、肥料・プラスチックなどに一度は固定されたCO2が、長い月日を経て再び大気に放出されることから、DACによりCO2を回収するルートを送らなくてはならない。
286	文献	2.5 [10]	Solbent	Solvent
298		Shell側ボイラー形	Shell側ボイラー形	Shell側ボイラー形式